

令和6年度 第1回 神戸市総合基本計画審議会
議事要旨

開催日時：2024年4月19日（金曜日）10時～12時

開催場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

出席者：

氏名	役職
飯田 裕生	連合神戸地域協議会 副議長
石川 路子	甲南大学 経済学部 教授
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
岩田 かなみ	株式会社W SoWeluコミュニティマネージャー
小野セレスタ摩耶	同志社大学 社会学部 准教授
嘉納 未来	ネスレ日本株式会社 執行役員（コーポレートアフェアーズ統括部長）
佳山 奈央	La vie est belle株式会社 代表（サトプレイスPORTOを運営）
河南 忠和	神戸市会議員（自由民主党）
客野 尚志	関西学院大学 総合政策学部 教授
國弘 正治	西日本旅客鉄道株式会社 理事（近畿統括本部・兵庫支社長）
佐合 純	iC株式会社 代表取締役
品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
高瀬 勝也	神戸市会議員（公明党 幹事長）
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
ながさわ 淳一	神戸市会議員（日本維新の会 団長）
服部 孝司	公益財団法人神戸市民文化振興財団 理事長
藤岡 義己	兵庫県中小企業家同友会 代表理事（株式会社 イーエスプランニング 代表取締役）
森本 真	神戸市会議員（日本共産党 団長）
山下 裕子	全国まちなか広場研究会 ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト
よこはた 和幸	神戸市会議員（こうべ未来 団長）
和田 真理子	兵庫県立大学 国際商経学部 准教授

欠席者：

浦島 理恵	インスタグラマー
久保 陽香	有限会社Lusie（元 神戸地域おこし隊）
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長

（敬称略、五十音順）

1. 開会

2. 市長あいさつ

(1) 委員の方への就任に対する御礼

(2) 次期・基本構想とは

- ・現行・基本構想が策定された1993年から30年以上が経過。現在、神戸市に関する様々な変化に対し、いかに的確にまちづくりへ反映させられるのかが求められている。
- ・基本構想は、今後の大きなまちづくりの方向性を示すものであるが、それは状況の変化から自ずと引き出されるものではなく、神戸市、そして神戸市民が主体的にどういうまちを目指すのかという判断と価値観が入るもの。
- ・この価値観には、変わることなく受け継いできたものや、それらを見直しながら、新たな価値を生み出す可能性やその必要性の判断も含まれていると考えている。

(3) 次期・基本構想素案に対する思い

- ・まちづくりの方向性に対し、市民一人ひとりで異なる意見もあるとは思いますが、それらをつなぎ合わせ、積み上げながら、策定していきたいと考えており、そのために、今回の基本構想に向けて、市民の皆さんよりたくさん意見をいただいたところ。
- ・それらを踏まえ、委員の皆さんにも率直に意見をいただきながら、よい方向性を見いだしていくことができるよう、これから約2カ年で基本構想と基本計画の策定への参画をお願い申し上げたい。

3. 審議会設置の趣旨説明

<事務局> 資料1：神戸市総合基本計画審議会規則に基づき説明

4. 審議会委員の自己紹介

5. 会長・副会長の選出・指名

- ・委員より、事務局案の提示について要望があり、事務局より品田会長を推薦。
⇒全会一致で選任
- ・副会長については、神戸市総合基本計画審議会規則5条第3項に基づき、品田会長が石川副会長を指名。
⇒全会一致で選任

6. 諮問

久元市長が諮問書を読み上げ、品田会長へ手交

7. 品田会長あいさつ

(1) 会長就任に対する思い

- ・約30年ぶりとなる基本構想の策定という貴重な事業に携わることができ、うれしく思っている。

(2) 先人たちの取り組み

- ・現行・基本構想は、新しいニュータウン等の開発が進み、年々人口が増加していた中で、2025年の未来を見据え、多数の市民参画を得ながら策定。阪神淡路大震災の前に策定したにも関わらず、持続可能性やボランティアといった引き継ぐべき要素の多いすばらしい内容。
- ・この基本構想に基づき、まちづくりが進められてきたが、阪神淡路大震災など様々な困難を乗り越えながら、まちの価値を高め、現在でも日本有数の大都市として発展を続けているのは、神戸の先人たちの努力の賜物。

(3) これからの審議に向けて

- ・激動の時代で、予測可能性が大変少ないという中、終期のない不変なまちの基本理念となる新しい基本構想の策定は、未来の神戸の分岐点になるような大きなチャレンジ。
- ・また、全国的な人口減少社会の中、新しい総合基本計画を策定し、神戸に関わる市民や企業の皆さんに知ってもらうことで、神戸の未来に対する期待感を醸成し、さらにまちへの愛着に繋がっていくのではないかと考えている。
- ・次期・基本構想素案は、多くの市民の方からの意見をもとに作成されたもの。私たちもこのような思いをしっかりと受け止め、また、先人たちの思いも受け継ぎながら、神戸のまちづくりの土台となる基本構想に向き合っていきたい。
- ・これより、各委員には、それぞれの立場、専門性を生かし、次期・基本構想素案をより良いものにするためにお力添えをいただきたい。そして、この基本構想をもとに、来年度にかけ、まちづくりの中長期的なビジョンとなる基本計画にも繋げていきたい。

8. 議事

議事は、現行「基本構想」の振り返りと、次期「基本構想(素案)」について

(1) 現行「基本構想」の振り返り

<事務局> 資料3：現行「基本構想」振り返りの視点、資料4 現行・基本構想に基づき説明

<委員>

①追加すべき観点

- ・挑戦し続けるまちとして、医療産業都市も挑戦し続けていると思うが、成果を市民にフィードバックする時期に入ってきている。挑戦するより実現するまちだと力強く言

うべきではないか。また、医療産業都市に関連して、健康の観点も追加すべきではないか。加えて、基本構想の中に仕事や産業という言葉がない。これらを入れていくべきだ。

②プロモーション方法

- ・神戸市の広報物は素敵なものが多いが、デザイン都市として伝えるということも力を入れて欲しい。作ったあと、皆さんが話題にしたくなるようなポップな感じのものを期待したい。

<会長>

- ・時間の都合上、プロモーションの議論は次回のテーマとしたい。

(2) 次期「基本構想(素案)」

<事務局> 資料5：次期・基本構想素案についてに基づき説明

<委員>

①構成

- ・従前の構想からボリュームが落ちて、読みやすくシンプルでよい。
- ・神戸のまちの人と魅力、未来のまちに向けた方向性で半分ぐらいだが、未来のまちに向けた方向性（特に5、6段落目）はもう少し分量があってもいいのではないか。

②スローガン

- ・子供たちでも分かるワンメッセージが必要ではないか。
- ・例えば、「みんながずっと大好きな神戸」とか「大好きなまちへ」はどうか。抽象的だが、色々な思いを一言で集約していると思う。
- ・スローガンをつけるかつかないかも含めて、パブリックコメントで市民の皆さんに意見を聞いてみてはどうか。
- ・スローガンは最後に公募で募集しても良いのではないか。個人的には神戸は多彩な表情、多様性など一言で表せないまちだと思う。例えば、英語で言う「and」を使い、都会と海と山、外国と日本らしさなど、全て「and 何々」というまちであり、andのまちだと感じる。
- ・スローガンは皆で未来に向かっていきましょうという姿勢を示す言葉。市民の皆さんとスローガンを表現することも含めて分かち合いたい。
- ・私はスローガンは必要ないと思う。神戸の魅力は多彩で一言で表現するのは難しい。基本計画やビジョンにスローガンは任せて良いのではないか。

- ・神戸は港があり、山もあり、下町もあり、農村地区もあり、それを一言で表現するのは難しい。思い付きだが、神戸を舞台にしたテレビなどでよく見る「BE KOBE」は、神戸であれと言うのか神戸になれと言うのか、神戸になりましょうなどの意味が込められていると思う。「BE KOBE」をスローガンにするというのが難しいのであれば、デザインの中に入れ込むなど、市民の皆さんが「神戸に生まれて良かった」、「神戸に住んで良かった」、「神戸で育って良かった」と思えるような総合計画になれば良いと思う。
- ・神戸は非常に多彩なまち。私は神戸を「国内移民都市」だと思っている。明治開港以来、九州や四国などからもの凄い数の人が集まってきて、産業も活発であった。そんな力強い時代ならスローガンはつけやすい。人口も 150 万人を切っているなか、神戸の魅力をどう表したらいいのかというのは、これまでの神戸とは違う局面が必要になってくる。そのような中、私は一番フィットするのは「温かみのあるまち」なのだと思っている。ここに来る人たちが心温まる、癒される、オンリーワンのまち。そういう側面が大事になってくると思う。そう言う意味では、私もスローガンはつけなくても良いと思う。
- ・様々なところで「神戸らしさ」という言葉が使われているが、この素案の中には、「神戸らしさ」という言葉が出てきてない。市の職員に「神戸らしさ」とは何かと聞くと多くの方が答えられない。具体的に答えられないのに、なぜ神戸らしさという言葉を使うのかという話をよくするが、この素案を見ると、これが神戸らしさだと感じる。そういう神戸らしさという表現の仕方があっていいのではないかな。
- ・神戸の魅力を全部一言で言うのは難しいので、スローガンは抽象的な方が良いと思う。「もっとずっとみんなに愛されるまち神戸」とか「もっとずっと愛されるまち神戸」など、ふわっとしているが、みんなそうだよと思えるものが良い。
- ・「BE KOBE」で「これが神戸」「神戸になる」ということを表現して、その補足として素案があるという形もありだと思う。

③産業の観点

- ・神戸は歴史的にみて人工的につくられたまちであり、その背景には政策と「産業力」があると思う。ただ、今は「産業力」の輝きを失いつつあると考えている。その原因は何なのかよく考え、もう一度磨いて、輝きを取り戻さなければと考える。背景をしっかり押さえないと良い結果が生まれない。神戸は今、その曲がり角で、産業を育成するという視点がとても大事だと考えている。地域内投資を起こして、地域循環の中で地域内再投資を起こして神戸を豊かにしていくこと。もう一方はグローバル型企业から経済循環を生み出す。やはり、私はビジネス的に神戸らしさを磨くことが重要であり、その施策は神戸方式でしっかりと打ち出すべきだと思う。また、空港のインバウンドも非常に大きな要素で産業を変えらると思う。

- 神戸は海や空からのイメージが強いが、陸との交流拠点でもあるということも意識してもらいたい。日本国内のさらなる交流も大切。
- 神戸から出て帰ってきていない友人から話を聞くと、神戸には仕事がない。東京や大阪の方が、仕事がある。逆に帰ってきている人に聞くと神戸は住みやすいからと聞く。「仕事」は重要なキーワードだ。
- 神戸は重厚長大産業が支えてきたまちだが、あまり外に打ち出しているイメージはない。前半部分にそういったこれまでの産業の力強さみたいな表現を埋め込むのはどうか。あるいは6段落目に産業とか仕事の重要性というのを入れ込んでほしい。
- 神戸の人は、神戸は非常に豊かで住みやすくて、このままでいいと満足しているのではないかと思っている。一方、他都市は現状に危機感を抱いて頑張らないと先がないかと思っている。このまま進むと結果的に神戸はどんどん沈滞してしまって、最終的に神戸は危機的な状態になると聞いたことがある。神戸が抱える危機的状況をどう脱するかというようなものも素案に必要なかと思う。
- 良い神戸だと思っても、まだまだできるものがある。可能性がある。神戸の力ってこれだけじゃない。それらをみんなで作っていきこうのような、可能性をもっと解放していく力強い言葉が6段落目とかにあるとよいと思う。
- 神戸の人は優しい人が本当に多い。はたらく、傍（はた）を楽にするような感覚的なところをどう取り入れるかも大切である。自分の周りにいる人をどれだけ意識できているか気になった。
- 素案の一番核は、「まちの誇り」だと思う。その誇りを何でもって持てるようにするのかの根拠のところ曖昧。根拠を示していかないといけない。「生きるということ」、「働くということ」、「生活するということ」は、ニアリーイコールなので、ここは押さえておかなければならない。そうでないと誇りにつながらない。

④グローバルやテクノロジーの記載

- 素案は、神戸という文字を隠して読んでも、神戸とわかる素敵な内容だと思う。ただ、6段落目で急にモヤがかかる。まちの歩みとテクノロジーの融合とは何なのか。もう少し、掘り下げ、具体的に書いていくべきではないか。グローバルに貢献という言葉も、神戸から発信していくのか、世界の技術などを神戸に持ってきて昇華していくのか。また、世界とつながるといってもインなのかアウトなのか。もう少し深掘して議論をしたい。地元企業を鼓舞するような言葉も欲しい。地元の企業が世界に向かっていく姿というのはすごい大事で、若者に魅力的に映って、市内企業への就職につながっていく。
- 私もテクノロジーとかグローバルという部分が抽象的で気になる。あえて、カタカナを使わず、漢字にするなどしても、面白いのではないか。
- 読む人がある程度、想像できる余白を残すことも大切ではないか。

- ・私も6段落目が弱いと思う。市のワークショップやアンケートなどに参加される方は比較的時間に余裕がある方だと思うが、もっと忙しくされている方には、余白を埋めようと思わない方もいると思うので、強いメッセージが良いと思う。産業とか仕事など、もっとわかりやすい言葉でも良いかと思う。子供にわかりやすくするには、「しごと」でも良いかと思う。
- ・これからはグローバルな視点から選ばれるまちにならないと駄目だと思う。神戸は外の人も気持ちよく受け入れ、土地の素晴らしさもある。そういったところを産業的な部分で、神戸だからこそ伸ばせるというまちになっていけばいいなと思う。
- ・神戸は世界への発信もあるし、神戸は世界から選ばれるという視点も大切だ。
- ・子供が神戸のことを学校で学ぶ際の材料として素案を読んだが、1、2、3段落目は神戸の魅力の手がかりになり、いろいろなことを調べられると感じた。4、5段落目も大丈夫だが、6段落目になった途端、何を調べたら良いか、わかりづらくなった。これからの方向性の部分が弱いのではないか。子供たちが希望を感じるような内容にできたらと思う。テクノロジーとかグローバルという表現は何十年も使われていた表現で、この先、陳腐化するのではないかと思った。

⑤多様性の定義

- ・文の中に多様性という言葉ができてくるが、私は多様性とは、外国の方にとどまらず、働き方、家族の形など、いろいろな視点で解釈されるものだと思う。「多様性ある」と「あふれる」にするなど包み込むかたちにするべきだと思う。
- ・神戸ほど自然は自然、まちはまち、農村は農村、下町は下町みたいな感じで、それぞれのアイデンティティーが物すごくはっきりしていて、しかも同じ市の中に隣接してあるというのは、あまりない。その多様性は2段落目で表現されているが、少し弱いような気がする。

⑥基本構想の終期

- ・基本構想の終期はないとのことだが、変更する際の手続きについて示した方がよいのではないか。
- ・企業の経営理念は基本的に終期を考えていない。経営者が代わるとか、大きく時代がパラダイムシフトするというタイミングで見直すものなので、現時点では見直すということは想定せずに進めていくのがいいと思う。

<会長>

- ・構想を大きく変えるというのは、相当にいろいろな事情の変化が市にも市民にもあるということ。決して変えてはいけないものではないが、コロコロ変えるものでもない。時代に任せてもいいのではないか。

⑦その他

- ・「開港以来」という言葉があるが、以前博物館に行ったときに、歴史の流れもふわっと捉えていて、それが逆に神戸らしさと感じて良く思った。ふわっと感じる抽象さも良いのではないか。
- ・素案の中で「神戸」という言葉が入っていて、素敵だと思う。後半の段落にも同じように「神戸」を入れてみてもいいと思う。

<会長>

- ・非常に有意義な内容だった。事務局の皆さんには特に後半のほうを中心に第2回の審議会に向けてさらにブラッシュアップをお願いしたいと思う。

9. 閉会

<事務局>

- ・貴重な多くの意見を頂き、御礼申し上げます。市民の方からの言葉を紡いでいくということ的重要視して作ってきたが、確かに6段落目の産業の部分はあまり上がってきかなかったので、これから今日の議論を踏まえて反映していきたいと考える。
- ・スローガンの話は、端的にステートメントとしてまとめたというなかで、あえてここにつけることがどうかという懸念もあり控えていたが、今日の議論を踏まえたうえで考えていきたい。
- ・海外からという話はそのとおりで思っている。神戸空港も含めて、神戸が海外と直接繋がっていくこと、これはインもアウトも重要だと考えており、しっかり考えていきたい。6段落目の産業と仕事。私ももう少し言葉が必要だと考えており、工夫させて頂く。
- ・本日いただいたご意見を踏まえて、6月に向けて素案を再度、提示させて頂き、意見をいただいた上で、パブリックコメントに移っていきたいと考えている。その上で、9月にはできれば答申という形にしたいと考えている。今後とも、委員各位のご指導、ご協力をお願いしたい。

以 上